



写真提供：丘の森写真研究会 岡村國次



ご挨拶

副院長 佐藤 祐一

4月より長岡中央総合病院に副院長として赴任いたしました消化器内科の佐藤祐一と申します。

私は、新潟大学を平成3年に卒業し、平成4年から平成6年までの2年間、長岡中央総合病院で、研修医2年目と消化器内科医の1年目として勤務させていただきました。

今回、「出戻り」といった感じではあるのですが、病院自体、川崎に移転し、新しくかつ大きくなっており、全く違う病院に来てしまった感があります。それでも、富所院長はじめ、若いころお世話になっていた医師の方々や看護師さんも少ないながらも在籍されており、心強く感じております。

新参者で不慣れなことが多く、まだまだ周りに迷惑をかけておりますが、早くこの環境に慣れて、少しでも地域の皆さんのお力になれるように頑張りたいと思っております。特に消化器内科は非常にアクティブに診療を行っており、長岡市および周辺地域の医療の中心を担っていると自負しております。

これからも、微力ながらも長岡中央総合病院の発展に寄与できるよう努力していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

HCU（高度治療部）が稼働しました

HCU（高度治療部）とはハイケアユニット（High Care Unit）の略で、診療科に関わらず、手術後や緊急入院など高度な医療を必要とする患者様が治療を受ける部署です。多くの医療機器を有し、看護スタッフも一般の病棟より多く配置されています。

長岡中央総合病院においても2019年4月1日よりHCUが開設されました。

当院のHCUは個室4床、開放8床の計12床の構成です。個室4床は緊急入院や緊急手術後、開放8床は主に手術直後の患者様を受け入れています。全ての病床に生体モニター（心電図、血圧や呼吸の状態が表示されるモニター）が配置されています。更に、スタッフステーションや通路で全病床の生体モニターが確認できるディスプレイがあり、異常を早く捉えることができるようになっていました。手術や入院直後の期間をHCUで過ごして頂き、全身の状態が安定してから一般病棟に移動します。また、入院中の患者様の容態が変化した時もHCUで受け入れを行い、より濃厚な医療や看護ケアが必要な患者様に対応しています。

HCUでは「寄り添い、応える看護を提供します」の看護方針のもと、患者様中心の医療を日々実践しようと努力しています。安全な医療の提供や感染予防に努めると共に、多職種による連携に力を入れていきます。認定看護師や呼吸サポートチーム、早期からのリハビリテーションなど、各部門と緊密に連携することで患者様のスムーズな回復をサポートしようと取り組んでいます。

病棟の作りが特徴的ですので、白い壁紙だけではなく、空や木の模様の壁紙で変化をつけました。以前の病棟からの窓は残してありますので、必要なときはベッドの位置を動かして患者様に外の景色を眺めて頂く時間を作っています。また、心配な思いをされているご家族様の気持ちが少しでも和らぐように、家族控え室には、併設のたんぽぽ保育園園児による手型足型アートを飾りました。HCUで過ごす時間は短いのですが、患者様やご家族の辛さや不安にしっかりと寄り添い、可能な限り苦痛を和らげることができるようスタッフ一同研鑽を重ねてまいります。



検査科

具合が悪くなり病院に行くと、その原因を調べるために様々な検査が行われます。医師が診察を行う前に、患者さんの病気やケガの状態を評価するための検査のことを「臨床検査」といいます。具合が悪い所の特定以外に、自覚症状が無い場合でも異常をとらえられることがあり、病気の早期発見、早期治療にもつながります。このように診察前に検査を行い医師に検査結果を報告しているのが、我々臨床検査技師です。

臨床検査技師が所属する検査科は、2019年4月より検査科部長として新潟大学から中野先生を迎え、現在42名が在籍しております。糖尿病療養指導士、超音波検査士、認定輸血検査技師など各種学会認定を取得し、より質の高い医療を提供するためにさらに多くの資格取得を目指し日々努力しております。仕事の内容は幅広く、血液検査や尿検査、血液型検査など輸血のための検査、インフルエンザなどの感染症検査、脳波検査そして心電図や呼吸機能検査なども行っています。エコーと呼ばれる超音波検査も臨床検査技師の重要な仕事の一つです。病院内で検査をする場合、いろいろな場所で我々臨床検査技師が携わっています。中央採血室での採血も臨床検査技師が中心となって行っています。血が固まりにくくなる薬を服用されている場合や、アルコール消毒で赤くなる方、その他採血に不安がある方などは採血前に気軽に相談してくださいね。

また、検査室以外でも臨床検査技師の専門性を活かした活動を行っています。糖尿病予防や治療を目的に糖尿病教室と呼ばれる教育活動や、検査データから栄養状態を評価し、治療効果を高めるために栄養管理をする栄養サポートチームなど、積極的に他医療職種とチームを作り連携をとりながらサポートしています。

さらに、休日・夜間の救急外来での緊急検査にも即時対応できるように、365日24時間体制で常駐しています。

正確で迅速な結果報告を心がけ、患者さんが不安なく検査できるように信頼される検査科を目指していきたいと思えます。



記事担当：検査科 佐藤 雅哉



栄養科
ワンポイント
コーナー

7月27日は「土用の丑の日」

～どうして鰻を食べるの？鰻の栄養は？～



○土用の丑の日とは

「土用」は立夏・立秋・立冬・立春直前の約18日間の「期間」を示す言葉です。

昔の暦では日にちを十二支（子・丑・寅・卯…）で数えていました。

つまり「土用の丑の日」とは、土用の期間に訪れる丑の日の事を指しているのです。

土用は毎年違うので、土用の丑の日も毎年変わります。「土用の丑の日」といえば夏のイメージが強いかもしれませんが、1年に何度かやってきます。

○どうして鰻を食べるのか

鰻を食べる習慣が一般的に広まったのは1700年代後半、江戸時代でした。一説によれば

「夏に売り上げが落ちる」と鰻屋から相談を受けた蘭学者の平賀源内が店先に

～「本日丑の日」土用の丑の日 うなぎの日 食すれば夏負けすることなし～

という看板を立てたら大繁盛したことで、他の鰻屋もマネするようになったとか。

土用の丑の日に鰻を食べることは、栄養的にも夏バテ防止にはピッタリといえます。

鰻には、さっぱりしたそうめんなどが欲しくなる今の季節に不足しがちなビタミン、ミネラル類が多く含まれています。もっとも顕著なのはビタミンAの多さ。肌荒れや視力低下を防ぐとともに、粘膜を正常化させて風邪などを防ぐ効果もあります。ビタミンAは脂と一緒に摂取することで吸収率が高まりますので、脂のついた鰻との相性も抜群といえます。

皆さんもぜひ、夏バテ予防に鰻の蒲焼、そして付け合せに野菜を食べて、よりよいバランスで栄養補給してみませんか？



病院からのお知らせ

✓ 一治療継続しながら働きたいー 長期療養者への就職支援をしています

近年の医療技術の進歩や医療提供体制の整備等により、がんは「長く付き合う病気」になってきました。仕事を続けながら通院する患者さんが増えている一方で、がんの診断後に約4割の方が仕事を辞めてしまっているとの調査結果もあります。このような中で、ハローワークと医療機関が連携し、がんをはじめ、肝炎や糖尿病など長期的治療が必要な方（長期療養者）の就職支援が行われています。当院もハローワーク長岡と協定を結び、ハローワーク長岡による就職相談を病院内で行っています。

◆治療のために仕事をやめてしまった… また働けそう

◆外来受診もある、体力にも自信はない…

自分にあったペースで働けるところってあるのかな
そんな方への相談、支援を行います

- 症状や通院状況に配慮した求人を探します
- 仕事復帰に関する不安解消のための相談に応じます
- 応募書類の作成や面接の受け方についてアドバイスします

日時：第2金曜日、第4火曜日 13:30～15:30
場所：がん相談支援センター（18-3 地域連携支援部内）

長期療養者への就職支援をしています



4/22 ハローワーク長岡との締結式の様子

✓ 新入職者 がんばっています！

令和元年度は新人看護師25名の新メンバーを迎え、4月の看護技術研修を経て各部署に配属されました。

長岡中央総合病院に受診して、入院して良かったと思っていただけるよう、看護部理念の「私だったら私の家族だったらどんな看護を受けたいのかを考えて看護を提供する」を胸に、一生懸命頑張っています。

まだまだ不慣れではありますが、笑顔で勤務しておりますので、温かく見守っていただけたら幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。



記事担当：副看護部長
殖栗 加代

✓ JAボランティア活動紹介

奇数月の第4木曜日 / 13:30～15:00

当院にて、草取り・車椅子磨きをしていただいております。

5月23日(木)はとても気温が高い中、7名の方より、正面玄関の草取りをして頂きました。おかげ様で大変綺麗になり、気持ち良く患者様を迎えることができております。

ありがとうございました。

ボランティアの方も随時募集しております。皆さんよろしくお願い致します。

担当：地域連携支援部 藤田 弥生

